

高校英語へようこそ

4回目

添削問題

QET4A1-T1A4-01

※ここからは『Z Study 解答用紙編』の英語「高校英語へようこそ」4枚目にご記入ください。

4

A 下線部(1)(2)を和訳せよ。

(10点)

Grammar is the way we put words together to say something. 'I have bought a cake' tells you something. 'May I have a cake?' asks a question. 'Give me a cake' tells someone what to do. If you want people to understand what you mean, you have to use the right kinds of words and put them in the right order, because 'I have buy a cake' and 'May a cake I have?' does not \*make any sense.

(1) Words can be grouped into sorts called parts of speech. Most important are the nouns which name things, the verbs which tell you what is happening, and the adjectives which describe things. (2) Some words can do more than one of these jobs: the word 'fall' is a noun in the sentence 'I had a fall' and a verb in the sentence 'I am going to fall'. Nearly all sentences have a verb and most have at least one noun.

\*make sense : 「意味を成す」

*Oxford Children's Encyclopedia*

QET4A1-T1A4-02

B 指示に従って、次の問題に答えよ。

(10点)

次の日本語を英語に直しなさい。

私の兄が東京に引っ越してから3年になる。

C 次の英文を読んで、以下の設問に答えよ。

(30点)

著作権の関係で表示できません。

- (1) 空所①に入れるのに最も適切な前置詞を答えよ。(2点)
- (2) 下線部②は具体的にどのようなことか。英文の内容に即して日本語で答えよ。  
(6点)
- (3) カッコ③, ⑦内の動詞をそれぞれ適切な形にせよ。ただし, 1語になるとは限らない。(各2点)
- (4) 下線部⑤のようなことが言えるのはなぜか。英文の内容に即して日本語で答えよ。  
(6点)
- (5) 下線部④, ⑥を和訳せよ。(各6点)

高校英語へようこそ 4回目

添削問題 解答解説

QET4A1-T1C4-01

4

A 下線部(1)(2)を和訳せよ。 (10点)

Grammar is the way we put words together to say something. 'I have bought a cake' tells you something. 'May I have a cake?' asks a question. 'Give me a cake' tells someone what to do. If you want people to understand what you mean, you have to use the right kinds of words and put them in the right order, because 'I have buy a cake' and 'May a cake I have?' does not \*make any sense.

(1) Words can be grouped into sorts called parts of speech. Most important are the nouns which name things, the verbs which tell you what is happening, and the adjectives which describe things. (2) Some words can do more than one of these jobs: the word 'fall' is a noun in the sentence 'I had a fall' and a verb in the sentence 'I am going to fall'. Nearly all sentences have a verb and most have at least one noun.

\*make sense : 「意味を成す」

*Oxford Children's Encyclopedia*

解答

- (1) 単語は品詞と呼ばれるいくつかの種類に分類することができる。
- (2) 単語の中にはこのような働きを2つ以上するものもある

解説

- (1) ○ Words can be grouped into sorts 「単語は (いくつかの) 種類に分類することができる」 can (…することができる) という助動詞の後に, be 動詞+過去分詞 (grouped) という受動態が続いた形。group は group ~ into ... で「~を…に分類する」の意になる。ここでは~に当たる words が主語になって ~ (can) be grouped into ... という受動態になっている。sort は「種類」の意。
- (sorts) called parts of speech 「品詞と呼ばれる (種類)」 parts of speech で「品詞」の意。意味を知らなくとも, 下線部に続く the nouns (名詞), the verbs (動詞) ... という具体例から, 推測可能である。called 以下が前の sorts を修飾している。過去分詞の形容詞用法である。

〈Words〉 〈can be grouped〉 into sorts  
 S V (助動詞+受動態) ↑  
 called parts of speech  
 過去分詞の形容詞用法

◀ 分詞の形容詞用法

- (2) Some words can do more than one of these jobs について  
ここで問題となるのは more than A 。

× more than A = A 以上

○ more than A = A より大きい

例) Take more than two. 「3つ以上取りなさい。」

よって下線部(2)は「2つ以上」と日本語で訳出するのが最も自然。下線部(2)全体では「単語の中にはこのような働きを2つ以上するものもある」となり、1つの単語がさまざまな品詞となることを言っている。

### 重要語句

- the way + S + V (I. 1) 「…するやり方」
- put ~ together (I. 1) 「~を組み立てる」
- put ~ in the right order (I. 4) 「~を正しい順序に並べる」
- nearly (I. 10) 「ほとんど」
- at least (II. 10 ~ 11) 「少なくとも」

### 注

- grammar (I. 1) 「文法」
- right (I. 4) 「適切な」

### 全訳

文法とは、何かを言うために私たちが単語を組み立てる、その方法のことである。「私はケーキを買った」という文はあなたになんらかのことを伝えている。「ケーキを食べてもいいですか」という文は質問をしている文である。「私に1つケーキを下さい」という文は、人に何をしたらよいかを伝える文である。もしあなたが自分の言っていることを人に理解してもらいたいならば、適切な単語を用いて、それらを正しい順序に並べなければならない。なぜなら 'I have buy a cake' や 'May a cake I have?' では意味を成さないからである。

(1) 単語は品詞と呼ばれるいくつかの種類に分類することができる。最も重要なのは、ものに名前を与える名詞、何が起きているのかを伝える動詞、そして物事を描写する形容詞である。(2) 単語の中にはこのような働きを2つ以上するものもある。例えば 'fall' という単語は「私は転んだ」という文の中では名詞であり、「私は落ちそうだ」という文の中では動詞である。ほとんどすべての文には1つの動詞が含まれており、またたいていの文には少なくとも1つの名詞が含まれている。

B 指示に従って、次の問題に答えよ。

(10点)

次の日本語を英語に直しなさい。

私の兄が東京に引っ越してから3年になる。

**解答**

Three years have passed since my brother moved to Tokyo.

**別解** It is [has been] three years since my brother moved to Tokyo.

**解説**

今回の英作文テーマ「時制」

「…してから～(=期間)になる」は、～(=期間) have passed since …, あるいは it is ～(=期間) since … (is の代わりに has been も可) で表せる。「3年」は three years だから、Three years have passed since …, あるいは It is [has been] three years since … と始める。…に当たるのが「私の兄が東京に引っ越す」である。「兄」は単に brother とするか、older brother, elder brother などとする。「～に引っ越す」は move to ～ で表せる。…の部分は過去の内容なので、全体をまとめると Three years have passed since my brother moved to Tokyo. あるいは It is [has been] three years since my brother moved to Tokyo. となる。

C 次の英文を読んで、以下の設問に答えよ。

(30点)

著作権の関係で表示できません。

- (1) 空所①に入れるのに最も適切な前置詞を答えよ。(2点)
- (2) 下線部②は具体的にどのようなことか。英文の内容に即して日本語で答えよ。(6点)
- (3) カッコ③, ⑦内の動詞をそれぞれ適切な形にせよ。ただし, 1語になるとは限らない。(各2点)
- (4) 下線部⑤のようなことが言えるのはなぜか。英文の内容に即して日本語で答えよ。(6点)
- (5) 下線部④, ⑥を和訳せよ。(各6点)

### 解答

- (1) to
- (2) 首を上下に振ると no の意味になり, 左右に振ると yes の意味になること。
- (3) ③ talking ⑦ to say
- (4) 現代では国際的なコミュニケーションが発達し, 人々は文化が違えば行動も違うことをよくわかっているから。
- (5) ④ 人々は「OK」と言うのに親指と人さし指を使って輪を作る。  
⑥ 人々がどう振る舞うかを注意深く見れば, 意思を伝える方法もわかるものである。

### 解説

- (1) このように前置詞を補充する問題は, 空所の前後を幅広く見て考える習慣をつけよう。空所の前後は …, from one culture ( ① ) another? となっているが, 空所の少し前にある前置詞の from がヒント。from と対になる前置詞は何かを考えてみればよい。「～から」という起点を示す from に対して, 「～へ」という着点を示すのは to である。

なお, from A to B の形は「AからBまで」という意味になるのが基本だが, from A to A, または本問のように from one A to another という形の場合は, 「AからAへ(次々と)」という意味の他に, 「Aごとに; Aによって」という意味にもなる。

Ex. I traveled from Tokyo to Kyoto.

(私は東京から京都へと旅行した。)

I traveled from country to country.

(私は国から国へと旅行した。)

The need for sleep varies considerably from person to person.

(睡眠の必要性は, 人によって大きく変わる。)

(2) the opposite meaning は「その反対の意味」。前文では、「yes と言うために首を上下に (up and down) 振り, no と言うために左右に (side to side) 振る」と述べられている。よって, その正反対の意味は, 「上下に振る = no の意味」, 「左右に振る = yes の意味」ということになる。

(3) ③ 直前は are interested in ~ となっているので, in の後にくる語句は「名詞の働き」をするはずである。動詞 talk に「名詞の働き」をさせるためには, to talk (不定詞の名詞用法) とするか talking (動名詞) とするかどちらかである。ただし, 前置詞の後には原則として不定詞は続けられないので, 動名詞 talking の形が正解。

⑦ カッコの前は has a lot となっているが, この a lot は has の目的語で「多くのこと」という名詞の役割を果たしているので, その後ろの say は a lot にかかる形容詞の働きをさせればよい。したがって, to say (不定詞の形容詞用法) とするのが正解。have a lot to say は「語るべき多くのことを持っている」→「多くのことを語る」の意味。

(4) 下線部⑤は「誤って間違った合図を送っても, 人々は(誤解をせずに) わかるだろう」という意味。ここでは, 下線部分の直前の So に注目しよう。文の最初にある So は「そして; それで」の意味で, 前の文で述べられた内容の結果を述べることを示すサインである。つまり, 第4パラグラフは, 〈第1文=原因, 第2文=結果〉という関係になっているのだから, 第1文の内容をまとめれば正解となる。「なぜか」と理由を求められているので, 解答は「…から。」「…ので。」という形でまとめること。

(5) ④ 文の構成は以下の通り。

people make a circle <with their thumb and forefinger> to say "OK."  
 S      V      O                      副詞句                      to 不定詞の副詞用法

people make a circle は「人々は輪を作る」という意味。with ~ forefinger は, 「親指と人さし指を使って」と訳せばよい。最後の to 不定詞は, 主語, 目的語, 補語のいずれでもないから名詞用法ではない。直前の名詞句 their thumb and forefinger にかけて「OKと言う親指と人さし指」としても意味が通らないから, 形容詞用法でもない。ここは, 副詞用法で「OKと言うために」という‘目的’の意味であると考えたと文意が自然につながる。

◀動名詞

◀ to 不定詞が続く前置詞は「～以外の」の意味の but, except など一部のみ。

◀不定詞の形容詞用法

◀‘道具・手段’を示す with

◀不定詞の副詞用法

⑥文の構造は以下の通り。

(A careful) look (at how people act)  
                   S            疑問副詞

will teach you    how to communicate.  
           V            O<sub>1</sub>                    O<sub>2</sub>

- 文全体は S+teach+O<sub>1</sub> (人)+O<sub>2</sub> (物) で、「人に～を教える」形。 ◀ S V O O
- 主語は a look (観察)。前後の修飾語句を含めると「人々がどのように行動するかについての注意深い観察」となる。
- how ~ act は at の目的語になる名詞節 (間接疑問) となっている。

**重要語句**

- communicate** (I. 2) 「情報〔意見；気持ち〕を (相互に) 伝え合う」
- thought** (I. 3) 「意見；思考」
- emotion** (I. 3) 「感情」
- global** (I. 21) 「国際的な；地球上の」

**注**

- verbal (I. 2) 「言葉による」 ⇔ nonverbal (I. 2) 「言葉によらない」
- start with ~ (I. 6) 「～から始める」
- the person you are talking to (I. 11, II. 13 ~ 14) = the person that you are talking to
- more than ~ (I. 11) 「～より多い」
- stare (at ~) (I. 12) 「(～を) じっと見る」
- insult (I. 19) 「侮辱」
- point (I. 20) 「指さす」
- index finger (I. 20) 「人さし指」
- people do realize that ... (I. 21) 「人々は…ということを理解している」: 「理解している」ということを強調するために, realize の直前に do が置かれている。
- how people act (I. 24) 「人々がどう振る舞うか」

全訳

著作権の関係で表示できません。